

## ルクセンブルク月報【2022年4月】

在ルクセンブルク日本大使館

2022年4月のルクセンブルク政治・外交・経済・金融情勢について、政府機関の公表資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたところ、次のとおり。

### 主な出来事

#### 内容

1 内政 .....	1
2 外政 .....	2
3 ロシア・ウクライナ情勢 .....	3
4 経済・金融 .....	5
○経済指数 .....	5
○経済 .....	5
5 新型コロナウイルス関連 .....	6

#### 1 内政

##### ●ディシュブール環境・気候・持続可能な開発大臣の辞任に伴う内閣改造（22日付記者会見）

22日、ディシュブール環境相は、記者会見において、検察庁が2019年のトラヴェルシニ元ディッフエルダンジュ市長の汚職事件に関する調査結果をエツチェン国民議会議長に提出するとともに、同環境相の大臣の免責特権を解除するように正式に要請したことを受け、同事件の裁判の関係者であることを背景に、大臣の職を辞任することを発表した。

##### ●バウシュ副首相による2023年選挙後の大臣の不継続意思の表明（22日付ペーパージャム誌）

22日、バウシュ副首相兼防衛大臣兼交通・公共事業大臣（緑の党）は2023年の国民議会選挙後、政府閣僚の候補者にはならない旨述べた。同副首相は、「国民議会選挙には必ず立候補するが、政府の役職に就くことはもうない。」と述べ、これはすでに2019年3月に決めていたことである旨説明した。

##### ●ウェルフリング環境・気候・持続可能な開発大臣の任命（27日付記者会見）

27日、緑の党（連立政権与党）は記者会見を行い、22日に辞任したディシュブール

環境相の後任として、ウェルフリング氏を任命すること決定した旨発表した。同氏は、これまで緑の党の党员ではなかったが、27日党员資格を得た。バウシュ副首相（緑の党）は、ウェルフリング氏の選出は、緑の党员でなくとも環境政策に精通した人物が環境大臣にふさわしいとの判断によるものであることを強調した。

## **2 外政**

### **●ファイヨ協力・人道支援大臣のコソボ訪問（5日付政府コミュニケ）**

4日及び5日、ファイヨ大臣は、コソボを実務訪問し、コソボ共和国のヴオスマニ＝サドリウ大統領、クルティ首相及びリズヴァノリ経済大臣と会談を行った。また、両国間の第7回合同委員会が開催され、第2次二国間協力協定2017～2020の下で実施された協力プロジェクトの進捗が確認された。本協定の下、コソボの国家的優先事項に沿った主な協力分野は、保健、職業教育・訓練、欧州統合であったが、両国は、3分野全てにおいて前向きな結果が得られたことで合意し、1999年から続く両国の良好な協力関係を改めて歓迎した。

### **●ベッテル首相による仏大統領選挙におけるマクロン大統領の再選に対する支持（4日付仏フィガロ紙）**

ベッテル首相は、7日にストラスブールにて行われるマクロン仏大統領の再選を支持する市民集会に参加するとして、フィガロ紙の取材に対し、「自分は、欧州理事会でマクロン大統領と共に仕事をしてきた。マクロン大統領は、欧州の理念を守ってくれる人である。」と答えた。

### **●ルクセンブルクにおける仏大統領選挙結果（10日付ペーパージャム紙）**

ルクセンブルク在住仏人による仏大統領選挙の第一回目投票の結果、投票者総数13,368人（有効投票は13,243票）のうち、エマニュエル・マクロン候補が6,574票（49.64%）を獲得してトップに立ち、2位はジャン・リュック・メラシオン候補1,701票（12.84%）、3位はエリック・ゼムール候補1,391票（10.50%）、4位はヤニック・ジャド候補（緑の党）1,054票（7.96%）となり、大統領選の第2回投票に出場が決まったマリーヌ・ル・ペン候補は、808票（6.10%）で5位にとどまった。

### **●アセルボーン外相によるル・ペン候補に対する反対の表明（11日付RTL）**

マクロン候補及びル・ペン候補の第二回投票への出場が決まった第一回投票の翌日である11日、アセルボーン外相は、ルクセンブルクで開催されたEU外務理事会の前に、「仏大統領選挙の結果、ル・ペン候補が仏大統領としてEUに入らないことを望む。」と述べた。同外相は、「これは、平和あるいは基本的価値のプロジェクトたるべきEUとし

て、欧州に混乱を招くだけでなく、EUの本質を完全に別の道へと導くことになるだろう。フランスはこれを阻止しなければならない。」と付け加えた。

### ●マクロン仏大統領の再選に対する当地の反応（24日付ベッテル首相ツイッター及び25日付RTL）

24日、仏大統領選挙第2回投票が行われ、41.5%の有権者がル・ペン候補に投票したのに対し、マクロン候補が58.5%の得票率で再選された。ベッテル首相は、ツイッターで、「我々の民主的価値と我々の共有する共通の欧州プロジェクトを守る同僚であり友人であるマクロン大統領と仕事を続けることができ、幸いである。」と述べた。アセルボーン外相は、「フランスがル・ペン候補を大統領に選出しなかったことに欧州は感謝している。ル・ペン候補の大統領選出は、欧州に危険なナショナリズムと偽りの愛国主義をもたらすことになっただろう。“縦の統治”が今後より参加型になることを期待している。」と述べた。

### ●アセルボーン外相による訪印（26日付政府コミュニケ）

26日及び27日、アセルボーン外相は、インドを実務訪問し、ニューデリーにてオブザーバー・リサーチ基金（Observer Research Foundation）が主催する国際会議「ライシナ対話」に参加した。同外相は、ロシアに対する制裁の効果は決してすぐには現れず、中期的に見えてくるものであることを意識しておく必要があると強調した。また、同外相は、モディ・インド首相に迎えられとともに、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外相と二国間会談を行った。今回の会談では、2023年に迎えるインド・ルクセンブルク二国間関係樹立75周年に向け、インド・ルクセンブルク間の良好な二国間関係や、さらなる関係強化のための方法について議論する機会となった。

## 3 ロシア・ウクライナ情勢

### ●ルクセンブルクにおけるウクライナ避難民の状況（5日付コティディアン紙）

4日、アセルボーン外務大臣兼移民・難民大臣は記者会見において、最新の数値によれば、4069人のウクライナ戦争避難民が当国に到着したと説明した。そのうち、現在1605人が国家受入局（ONA：Office national d'accueil）の施設に収容されている。約90%がウクライナ国籍を保有しており、60%が女性及び少女、35%が未成年者である。ONAは、これから合計で17棟の建物及び2177床のベッドをウクライナ避難民のために確保することになる。

### ●バッケス財相のユーログループ会合及びEU財相理事会（ECOFIN）出席（6日付政府コミュニケ）

4日及び5日、バッケス財相は、当国において開催されたユーログループ会合及びEU

財相理事会（E C O F I N）に参加し、ウクライナ戦争がユーロ圏にもたらす経済的・社会的な影響について議論した。バックス財相は、「ブチャにおいてロシア軍が行った残虐行為を非難するには、どんなに強い言葉でも十分ではない。E Uによる強力かつ断固とした対応が必要である。E U加盟国は欧州機関と連携してこの危機に対処せねばならない。」と述べた。

#### ●露外交官に対するペルソナ・ノングラータの通告（6日付政府コミュニケ）

6日、アセルボーン外相は、ルクセンブルクは、当国の安全保障上の利益に反する活動を行う在ルクセンブルク露大使館の外交官1名に対し、ペルソナ・ノン・グラータを通告することを決定したと発表した。当該露外交官は15日以内にルクセンブルクを出国しなければならない。今回の措置は、欧州の取り組みの一環であり、外交関係に関するウィーン条約第9条に基づき行われたものである。

#### ●アセルボーン外相のNATO外相会合への出席（7日付政府コミュニケ）

6日及び7日、アセルボーン外相は、ブリュッセルで開催されたNATO外相会合に参加し、NATOの次期戦略概念について議論した。NATOのパートナー国であるオーストリア、フィンランド、ジョージア、日本、韓国、ニュージーランド、スウェーデン、ウクライナの9カ国との意見交換が行われるとともに、ボレルEU外務・安全保障政策上級代表も参加して、ロシアのウクライナに対する軍事侵略とその国際社会への影響について議論が行われた。

#### ●ウクライナに対する300万ユーロの供与（11日付デラーノ紙）

9日、欧州委員会主催の「Stand Up For Ukraine」グローバル・プレッジング・イベントにおいて、ベッテル首相は、当国がウクライナ支援のために、追加で300万ユーロを供与することを発表した。大公国消防救助局（CGDIS）がウクライナ側に送付した50トンの医療用品や消防用具に加え、「人道的アクセスが保証され次第」送付予定の「emergency.lu」通信設備も提供する。

#### ●当国におけるEU外務理事会の開催及びアセルボーン外相の参加（12日付政府コミュニケ）

11日、アセルボーン外相は、ルクセンブルクで開催されたEU外務理事会に参加した。EU各国外相は、ウクライナに対するロシアの軍事侵略、特にウクライナにおける軍事・人道状況、外交協力、停戦交渉、制裁、地域の安全保障について議論した。このような中、アセルボーン外相は、まずウクライナにおけるロシア軍が行った残虐な犯罪に対して強く非難し、ルクセンブルクのウクライナ支援に関しては、「ルクセンブルクは既に4600人以上の避難民を受け入れており、300万ユーロ近くの人道支援を行うとともに

に、衛星通信機器、医療機器、武器及び軍事防衛装備品も提供した。」と述べた。

#### ●アセルボーン外相インタビュー(12日付ラジオ放送局Deutschlandfunk)

12日、当地ラジオ放送局Deutschlandfunkによるインタビューの中で、アセルボーン外相は、プーチン露大統領について、「プーチンはモンスターと化し、ロシアがシリアで戦っているISのようなテロリストとなってしまった。」と述べ、「ウクライナをNATOに加盟させなかったのはフランスとドイツの戦略的誤りであった。」とするウクライナ外相の主張に対し、「私は2008年にブカレストで開催されたNATOの会合に出席したが、当時は、ドイツ、フランス、ルクセンブルク、スペイン、イタリア等の多くの国がそのようなステップを踏みながらなかったことも知っておく必要がある。当時の決定は、私は間違いだとは思わない。なぜなら、ウクライナを加盟させることで、現在のように、あるいはもっと前に、何かが勃発していたかもしれないからである。」と主張した。

#### ●バウシュ・ルクセンブルク副首相兼防衛大臣とレズニコフ・ウクライナ国防大臣とのテレビ会議(15日付政府コミュニケ)

14日、バウシュ副首相兼防衛大臣は、レズニコフ・ウクライナ国防大臣とテレビ会議を実施した。バウシュ防衛大臣は、ルクセンブルクが引き続きウクライナを支援する意思があることを認め、防衛局が現在、追加支援の可能性を検討していることを伝えた上、「ウクライナへの侵攻は、ここ数十年で最も深刻な欧州の安全保障秩序の侵害である。連帯、自由、民主主義は、当国にとって不可侵の価値観であり、当国がロシアの侵略から領土を守るためにウクライナを支援することは当然のことである。」と述べた。

## 4 経済・金融

### ○経済指数

●2022年4月のインフレ率は、年率6.96%(前月6.14%、前年同月2.09%)(5月4日付国立統計経済研究所(STATEC)プレスリリースより消費者物価指数(IPCN))

●2022年4月の失業率は、4.7%(前月4.7%、前年同月6.0%)(5月20日付国立統計経済研究所(STATEC))

### ○経済

#### ●エネルギー集約型企业に対する助成制度の承認(12日付クロニクル紙)

12日、欧州委員会は、EU国家助成規則に基づき、EU温室効果ガス排出権取引制度(ETS)の間接排出により電力料金の上昇に直面しているエネルギー集約型企业を部分的に補償する当国の助成制度を承認した。この制度は、2021年から2030年までの期間を対象とし、総予算は5億ユーロと見積もられている。企業が気候政策に野心的でな

い第三国に生産拠点を移し、世界的な温室効果ガス排出量を削減せずにEU内の経済活動を縮小させる「カーボンリーケージ」のリスクを低減させることを目的としている。当助成は、前年に発生した間接排出費用の一部を払い戻すという形で対象企業に交付され、発生した間接排出費用の75%に相当する額が助成額の上限となっている。

**●OECDによる2021年の海外援助拠出額の発表（13日付ルクセンブルク・タイムズ紙）**

12日、OECDは、当国が2021年に海外援助制度に前年費10%増の5億ユーロ近くを拠出し、経済規模で測定した場合に最大の貢献者となった旨を発表した。当国の拠出額は5億3900万ドル（4億9800万ユーロ）で、国民総所得（GNI）の約1%に相当し、OECDの富裕国で構成される開発援助委員会（DAC）を構成する29か国の中で最も大きな割合を占めた。実際の拠出額としては、当国の貢献度は22位と下位に位置する。

**●2022年3月末時点の当国の財政状況（25日付政府コミュニケ）**

25日、バックス財相は、国民議会の財政・予算委員会と予算管理委員会の合同会議において、3月31日時点の財政状況を報告した。政府の収入は3月末で61億ユーロとなり、前年同月比+13.4%、7億1600万ユーロの増加となった一方、政府支出は約53億ユーロに達した。公的債務については、現在の累積債務残高は169億ユーロとなり、対GDP比では23.7%相当となった。

**●「国家改革プログラム」及び「安定成長プログラム2022」の発表（4月26日、27日及び29日政府コミュニケ）**

29日、政府は、EUにおける経済・社会的予算・労働政策の調整サイクルである「欧州セメスター」の枠組みにおいて、2022年から2026年までの国家改革プログラム（PNR）と安定成長プログラム（PSC）の2022年版を欧州委員会とEU理事会に送付した。PSC2022において予算見通しを更新した結果、財政はウクライナ戦争により短期的に著しく悪化し、2022年の政府収支は▲16億ユーロ、公的債務残高はGDP比25.4%と見込まれた。

**5 新型コロナウイルス関連**

**●感染状況の推移（当国保健省及び国立衛生研究所・週間発表）**

	4/4-4/10	4/11-4/17	4/18-4/24	4/25-5/1	累計
新規感染者(人)	6,172	5,403	4,311	3,641	238,917(5/1 時点)
新規死者数(人)	9	5	7	6	1,068(5/1 時点)
ワクチン接種数	1,339	1,207	980	2,067	1,279,620 (5/1 時点)

(回)					
変異株	ホミクロン株 100.0%	ホミクロン株 100.0%	ホミクロン株 100.0%	ホミクロン株 100.0%	

●新型コロナウイルスの時系列まとめ

20日	80歳以上の人に対する4回目ワクチン接種開始の発表
22日	<p>12歳2ヶ月以上の人（ルクセンブルク人もしくは一部の第三国国民）が空路でルクセンブルクに入国する際に遵守すべき水際措置を廃止。</p> <p>これによって、ワクチン接種証明書、回復証明書、もしくは出発前48時間以内のPCR検査また出発前24時間以内の簡易抗原検査による陰性証明書の提示が不要となる。</p> <p>但し、第三国民のルクセンブルクへの不要不急の渡航に対する一時的な制限は、引き続き適用される。</p>